

令和3年度 学校教育自己診断の結果と分析

【学習指導等】

- ・「授業・指導方法の工夫」についての質問に対し、生徒の肯定的回答率81%、教員は86%であり、どちらも昨年より5ポイント上昇した。オンライン授業の推進や1人1台端末の活用推進、観点別学習状況の評価の研究等の効果とも考えられる。
- ・「ICTの活用」に関する質問に対し、教員の回答は100%となった。全員がICTの活用を意識した授業を実施できていると言える。

【学校生活等】

- ・「学校行事は楽しい」という質問に対し、生徒の肯定的回答率は88%と、昨年と比べ5ポイント減少したが、感染症の影響で様々な変更を余儀なくされながらも工夫し実施した結果、5ポイント減にとどまった。
- ・「部活動に力を入れている」という質問に対し、保護者からの肯定的回答率は81%と高めだが、実際入部率は50%止まりで、こちらも感染症の影響で活動に制限があることが要因の一つとして考えられるが、今後も部活動活性化に向けて工夫を凝らしたい。

【生徒指導等】

- ・保護者向けの質問を「指導に力を入れている」から「指導は理解できる」に変更したが、肯定的回答率は昨年度比3ポイント減の85%と比較的高かった。一定の理解を得られていると思われるが、一方で生徒からは「もっと自由にして欲しい」という声はある。現状と時代の流れを検証しながら見直していきたい。

【学校運営等】

- ・「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」という質問に対する教職員の肯定的回答率は、昨年度より8ポイント上昇したものの、67%と低い値となっている。任命する校長自身、適材適所という考えと、不得意なものも含めて色々な仕事を経験してほしいという思いとのジレンマは拭えない。
- ・「相互授業見学や校内研修が計画的に実施され、教育実践に役立つ内容」という質問に対し、教職員の肯定的回答率は96%であった。今年度は授業を短縮してでも教員のための研修時間を確保したいという思いで年間行事予定に研修時間を割り振った結果だと言える。